

I 《参考》調査結果の概観

《参考》調査結果の概観

(1) 定住性

ここでは、定住意向（問2）と生活環境の満足度（問4）をクロス集計し、定住意向・転出意向を持つ区民の満足・不満足的项目を明らかにしていく。

1 問2の選択肢を下記に置き換えて集計する。

「これからも住みたい」：定住意向のある人

「あまり長く住みたくない」、「大田区外へ移りたい」：転出意向のある人

上記と問4をクロス集計し、生活環境への評価点を算出する。

(2) 生活環境の満足度

ここでは、生活環境の満足度（問4）を取りあげて、区民の回答結果の項目間で何らかの影響や共通性があるかなどの、特徴を明らかにしていく。分析方法は以下のとおりである。

- 1 生活環境評価（＜全体としての「暮らしやすさ」＞）と生活環境個別評価の15項目との間にどのような関係があるかを偏相関係数の算出により分析する。
- 2 生活環境個別評価の項目群は、大きく分類するとどのような共通の要素から成り立っているのかを把握する。
- 3 2の分析により、どのような項目が生活環境評価（＜全体としての「暮らしやすさ」＞）の形成にどの程度影響しているのか、また改善点となる項目は何かなどを分析する。

(1) 定住性

問2の定住意向と問4の生活環境の個別評価から、定住意向・転出意向を持つ区民の満足・不満足的项目を明らかにしていく。

ここでは、問2の選択肢を下記に置き換えて集計する。

「これからも住みたい」：定住意向のある人

「あまり長く住みたくない」、「大田区外へ移りたい」：転出意向のある人

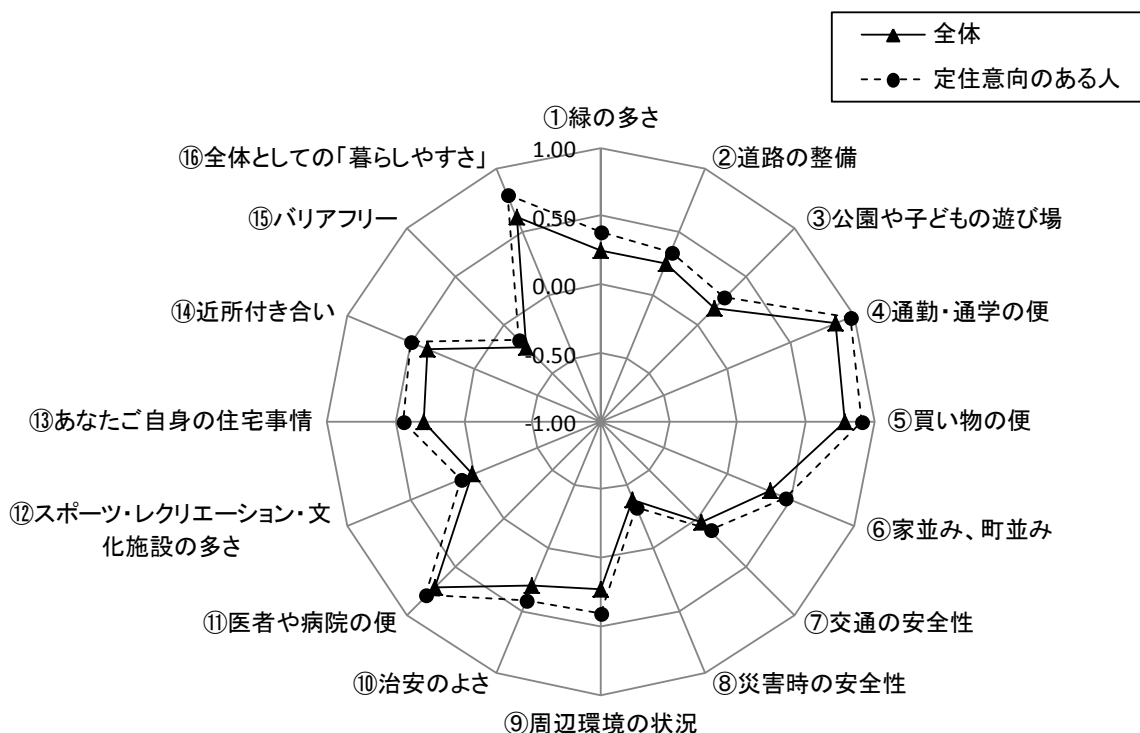
また、50ページで求めたと同様に、16項目にわたる生活環境評価の比較をしやすいように、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。

(再掲)

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

この計算によると、評価点は-1.00から1.00の間に分布し、1.00に近いほど評価が高く、-1.00に近いほど評価が低いことになる。

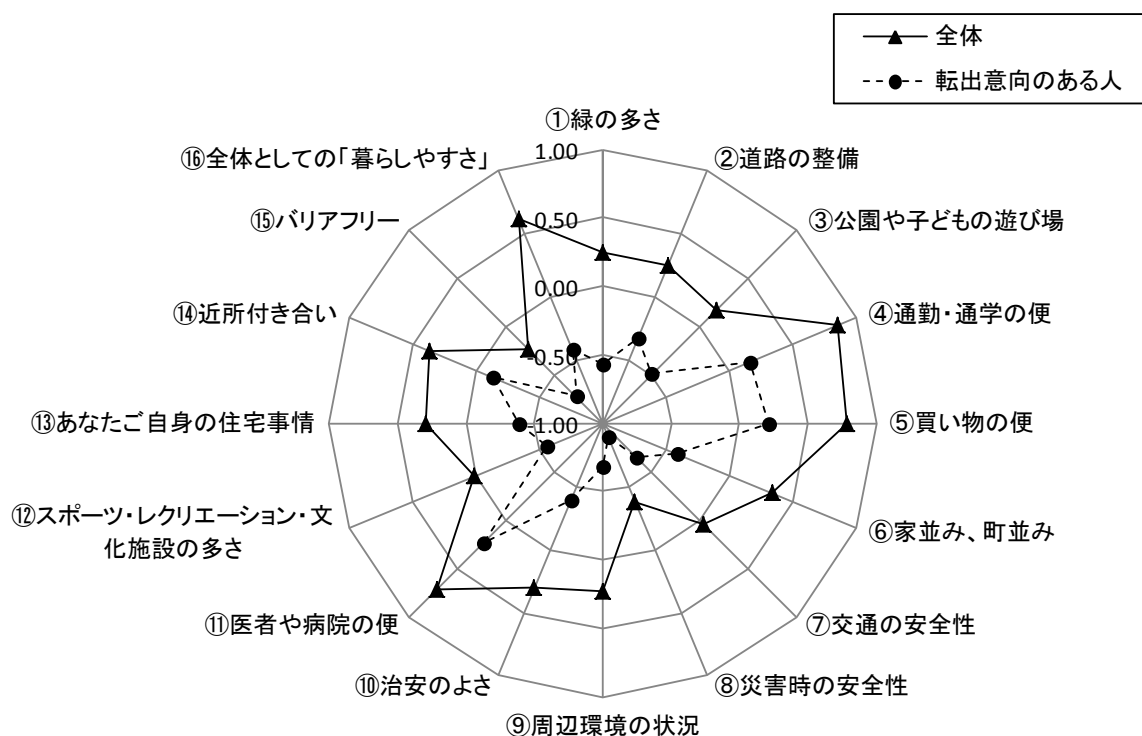
【定住意向のある人】問2：選択肢1「これからも住みたい」と回答した人（n=855）



- すべての項目で全体平均を上回っている。特に「周辺環境の状況」(0.41)が0.18ポイント、<全体としての「暮らしやすさ」>(0.78)が0.17ポイント、「あなたご自身の住宅事情」(0.44)が0.15ポイント上回っており、日常生活の上で自身に近い環境への評価が高い。
- 一方、全体平均より評価は高いものの、「定住意向」のある人の中で評価の低い項目は、「災害時の安全性」(0.32)、「バリアフリー」(0.16)、「医者や病院の便」(0.80)の順となっている。

【転出意向のある人】

問2：選択肢2「あまり長く住みたくない」、選択肢3「大田区外へ移りたい」と回答した人(n=69)



- すべての項目で全体平均を下回っており、特に<全体としての「暮らしやすさ」>(-0.42)が1.03ポイント、「周辺環境の状況」(0.68)が0.91ポイント、「緑の多さ」(0.56)が0.81ポイント下回っている。
- 一方、全体平均より評価は低いものの、「転出意向」のある人の中で評価の高い項目は、「医者や病院の便」(0.23)、「バリアフリー」(-0.72)、「近所付き合い」(-0.13)の順となっている。

【評価点一覧】

問4の生活環境についての16項目	全体平均	定住意向のある人	転出意向のある人
		評価点	評価点
①緑の多さ	0.251	0.385	-0.565
②道路の整備	0.242	0.343	-0.333
③公園や子どもの遊び場	0.176	0.280	-0.493
④通勤・通学の便	0.858	0.979	0.159
⑤買い物の便	0.782	0.910	0.217
⑥家並み、町並み	0.334	0.457	-0.406
⑦交通の安全性	0.038	0.129	-0.652
⑧災害時の安全性	-0.381	-0.324	-0.899
⑨周辺環境の状況	0.233	0.412	-0.681
⑩治安のよさ	0.299	0.422	-0.391
⑪医者や病院の便	0.713	0.801	0.232
⑫スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ	0.017	0.110	-0.565
⑬あなたご自身の住宅事情	0.288	0.441	-0.391
⑭近所付き合い	0.372	0.503	-0.130
⑮バリアフリー	-0.234	-0.161	-0.725
⑯全体としての「暮らしやすさ」	0.615	0.786	-0.420

- ・「④通勤・通学の便」、「⑤買い物の便」、「⑪医者や病院の便」は定住意向の有無にかかわらずプラスの評価となっており、今後もこの水準を維持していきたい点と考えられる。
- ・「⑧災害時の安全性」、「⑮バリアフリー」は定住意向の有無にかかわらずマイナスの評価となっており、改善が必要な点と考えられる。

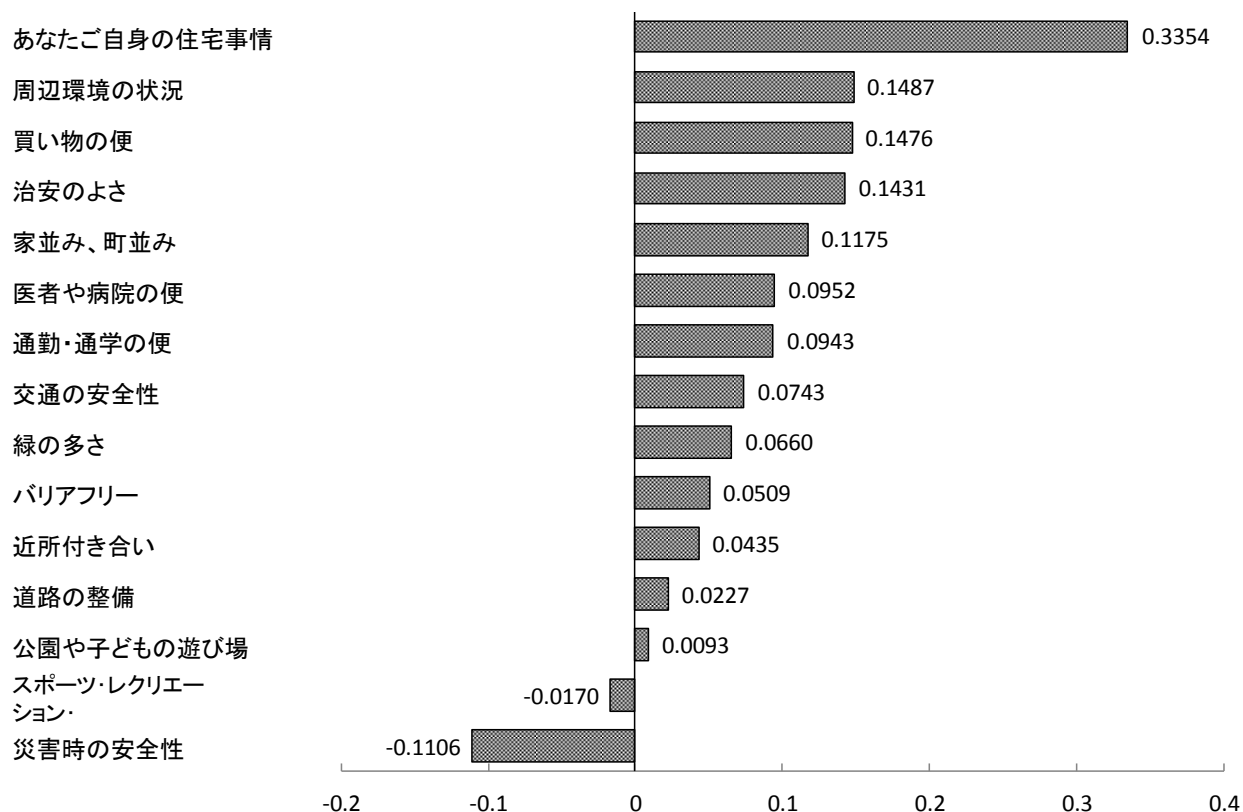
(2) 生活環境の満足度

生活環境の個別評価と＜全体としての「暮らしやすさ」＞の関係

問4の生活環境の満足度から、生活環境の個別評価と＜全体としての「暮らしやすさ」＞との相関関係についてみるために偏相関係数を算出した。偏相関係数とは、2つの項目（ここでは生活環境の個別評価それぞれと＜全体としての「暮らしやすさ」＞）の純粋な相関係数を表すものであり、その関係の大きさは絶対値で示される。

これで見ると、＜全体としての「暮らしやすさ」＞の評価との相関は、「あなたご自身の住宅事情」が最も高い。次いで「周辺環境の状況」、「買い物の便」、「治安のよさ」、「家並み、町並み」、「医者や病院の便」、「通勤・通学の便」の順になっている。

この傾向をみると、＜全体としての「暮らしやすさ」＞の評価とのつながりが強いのは、「あなたご自身の住宅事情」、「周辺環境の状況」といった日常生活を送る上で、自身に近い環境の影響が強いと考えられる。



下図は縦軸に問4の評価点、横軸に偏相関係数を取り、15項目の指標をプロットしたものである。

Aグループにある「通勤・通学の便」、「買い物の便」、「医者や病院の便」といった利便性に関する項目は、偏相関係数は低いものの評価点が高く、<全体としての「暮らしやすさ」>への評価改善に対する寄与度は低いと考えられる。しかしながら、今後も同水準を維持する努力が必要な点と考えられる。

Bグループは、<全体としての「暮らしやすさ」>への評価を高める今後の改善点となるグループと言える。

BグループのB1は偏相関係数は高いものの、評価点が低い項目である。しかし、「あなたご自身の住宅事情」という項目の特徴上、外部要因による改善は容易ではない。

BグループのB2に属する項目は、比較的偏相関係数が高い項目から低い項目が含まれる。また共通して評価点が低い項目群であり、その点ではB1グループと類似した項目群である。ただし、B1グループと違い、「家並み、町並み」、「治安のよさ」、「周辺環境の状況」など外部からのアプローチで改善可能な項目であり、<全体としての「暮らしやすさ」>への評価を高めるには、B2グループに属する項目が今後の課題と考えられる。

また、Cグループは偏相関係数は低いが、評価点がマイナスであり、改善が必要な点と考えられる。

